

2025年3月2日

「必要な一つのこと」

ルカによる福音書 10:38-42

早川 真牧師

私たちの日常はマルタのように、せわしなく立ち働くものでありましょう。生活のこと、仕事のこと、家庭のこと…私たちは生きていくために日々忙しく立ち働いています。その中で私たちは簡単に自分がまるで主人であるかのようにふるまってしまいます。自分のしたいことをし、自分の思いによって一日の行動を決めてしまいます。しかしそのような時、私たちの心は思い乱れ、私たちの主人であるイエスに対してさえ、まるで自分が主人であるかのように振舞ってしまう時があります。そのような時、私たちには静まり御言葉に聞く時が必要です。

全ての人、この主人になりたいという罪の中にあります。しかし人はそこから打ち砕かれて謙遜なものとなることができます。私たちの救い主、イエス・キリストを信じるということは、心の中に自分の主人を迎え入れるということです。

教会の暦の上では、次週から受難節に入ります。受難節はイエス・キリストが十字架への道のりを歩まれた、その苦しみを覚えて、悔い改めをもって過ごす期間です。それは自分の人生を神に明け渡すことを学ぶ期間です。私たちが自分の人生をイエス・キリストに明け渡す時、神は私たちの人生を本当の意味で実りあるものにしてくださると今朝の聖書の箇所は語っています。その実りは、目に見える世界のものだけでなく、永遠のものを私たちにもたらしめます。神の言葉に聞くというこの必要な一つのことを通して、神は永遠の命という実りを私たちに与えたいと願っておられます。その素晴らしさに目が開かれていくことを願いつつ、共に神の言葉に聞き、主に従ってまいりたいと思います。